平成 28 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　土砂災害の怖ろしさ　」

熊本県　熊本市立植木北中学校　2年　森山（もりやま）　理音（りのん）

土砂災害―。ニュースでしか見たことがない。一瞬にして、その場の景色を変え、一瞬にして、たくさんの命を奪ってしまう。恐ろしいものだ。と、客観的にしか見たことがなく、自分には関係のないものだと思っていた。

しかし、あの日をさかいに、私の土砂災害に対する気持ちが変わった。それは 2016 年 4 月 16 日。この日が何の日かは、大抵の人が分かるだろう。熊本大地震が起こった日だ。地震により、熊本では、土砂災害などの災害に見舞われ、多くの死者や負傷者を出した。今、現在でも、避難生活を余儀無くされている方々もたくさんいる。それをみると、私の今の環境がどれだけ幸せで、ありがたいのかがよく分かる。しかし、私も大雨が降ったり、地震が起こると、あの日のことを思い出してしまう。

2016 年 4 月 16 日、1 時 25 分。あの日、あの瞬間私は、リビングで家族みんなで集まって、テレビをつけ、ニュースを見ていた。兄は1人、合志市に住んでいる一人暮らしの祖母の家に行っていた。心配だったが、頻繁に連絡を取り合っていた。12 時を回って兄は、和室にふとんを敷いて寝た。そして私たちは、もしものためにと、水や非常食を準備していた。避難をしないで良いと願いながらも。

しかし、その時はやってきた。思いもよらない大地震に頭が真っ白になった。家の壁は、ぐらぐらとゆれている。私は、真っ先に机の下にもぐり、頭を守った。学校で地震による災害の訓練をしていたおかげか上手く自分の身を守ることが出来、落ち着いて行動できた。時間が経ち、地震はおさまったが、まだ私の心臓は、バクバクと落ちつきをみせなかった。それからしばらくして、ようやく状況を理解できた。すぐさま、テレビをつけて、情報を集めた。それから、その夜はあまり寝られなかった。次の日の朝、兄に連絡を取った。すると、目が思わずとび出てきそうな写真を目にした。それは、兄が寝ていた時、大地震が発生し、上にあった仏壇が兄の枕もとに倒れていた様子の写真だった。私は思わず自分の目を疑った。

「こんな奇跡的なことがあるの。」

「後数ミリ下に落ちてきていたら、死までいっていたかもしれない。」

「良かった。本当に良かった。」

と、話していた。

私の家は、ありがたいことに、あまり被害が無かった。この大地震の体験を通して、私は、自然災害の怖ろしさを学んだ。他にも、家族の大切さや、協力することの大切さを学ぶことができた。今までは、災害というのは、あまり自分の身で体験したことがなく、人事のように思っていた。しかし、この体験で、どれだけ怖ろしいものなのか、どれだけの命を奪い去っていくものなのかを実感することができた。

しかし、それからしばらくして、私の家の近くで土砂崩れが起きた。直接私の家や家族に被害は無かったが、現場を見てみると、本来の姿を忘れさせるような姿をしていて、正直、とてもショックだった。自然災害程、怖ろしいものは無いなと思った。突然のことであり、その突然の出来事がたくさんの命、思い出を消してしまう。

4 月 16 日の熊本地震により起こった土砂崩れに巻きこまれて、約4カ月間、行方不明になっていた人がいた。その方の家族の方々は、どんなに悲しく、どんなに不安だったのかと、私には想像しきれない程だったと思う。実際に、私がこの方の家族の立場だったとしたら、不安で不安で、生きていることも辛くなると思う。でも、この家族は、見つかる日まで、毎日毎日、一生懸命探し続けて、その希望を捨てずに、最後までやり通す姿は、本当にすごいなと思う。

自然災害を経験して、失うものも、もちろんたくさんあるが、得るものもたくさんあると思う。例えば、命の尊さや家族、周りの人がいることの大切さを学ぶことができたと思う。だから、これからも私は、かけがえのない命を大切にし、常に、周りの人に感謝して生きていきたいと思う。